

市長が行く

茂原市には本当に

高齢者施設が足りないのか

No.107

茂原市長

田中豊彦



先日、週刊誌の記事に、全国の自治体の中で高齢者介護施設が将来的に足りなくなると自治体ワースト50に茂原市がランクインしているという話が掲載されました。以前にもハローワークの有効求人倍率についてこの欄で書いたことがありましたが、実態と違った数字が報道により独り歩きしているようにも思えるため、ここで検証します。

この記事では、団塊の世代が75歳以上となる2025年を取り上げて、需要を要介護度3以上の高齢者の推計2214人と計算し、供給が市内高齢者介護施設定員数1066人なので充足率48・1%のため、施設が不足するという結論を出しています。この数字だけ見れば、確かに足りないように見えますが、実態として、要介護度3以上の人がすべて介護施設サービスを利用するわけではなく、病院に入院される方もいれば、在宅サービス希望される方もいます。

今現在の状況ですが、平成30年4月の段階で、茂原市における高齢者介護施設は全部で20施設あり、利用者は720人、入所待ちは217人です。要介護度3以上の高齢者の総計は1696人なのですが、そのうちの937人が施設利用希望者ということになります。つまり、要介護度3以上の高齢者のうち、施設入所を希望しているのは937人÷1696人で、55・2%にとどまっています。

また、平成30年4月現在の実際の入所待ち217人にしてても、記載はされていても方が一のための保険のようなつもりで申し込まれている方が約160人、それ以外の60人弱の方も何らかの条件が合わないなどのことが考えられます。なぜなら、供給数について言うならば、周辺の広域型

施設（定員）大網白里市208人、一宮町114人、睦沢町104人、長生村100人、白子町50人、長柄町110人、長南町180人、計8

66人）において、現在定員が埋まっていない施設もありますので、希望しさえすれば、入所待ちと言われている方はそういった周辺の施設に入ることも可能なのです。

こういった実態を考慮せず、単純な数字の計算だけで記事を書くことは、いたずらに不安を市民に与えることにつながりません。マスコミも売上を上げるための記事ばかり書かず、報道は正確にお願いしたいものです。週刊誌のこの記事に、読者がどれほどの信ぴょう性を求めているかはわかりませんが、やり玉に挙げられる自治体としてはいい迷惑です。

現在の介護事情においては、居宅サービスの充実を背景に在宅志向が強まっており、そのための事業展開が本質と考えます。

今後「もばら百歳体操」をはじめとした、介護予防、重度化防止に傾注してまいります。